



南米エクアドルの世界最高峰 チンボラソ 標高6310米



1802年、ドイツの地理学者フンボルトは、南米大陸赤道直下の国エクアドルの最高峰チンボラソの登頂を試み、標高5875米まで達し、当時の登山最高記録を打ち立てました。その後、1880年にイギリスの登山家ウインパーがマッターホルン初登頂を競い合ったイタリアの山案内人カレルとともにアンデスを訪れてチンボラソの初登頂を成し遂げました。折も折、一行がチンボラソ山頂に立った時、ちょうどコトパキシ火山(5897米)が噴火、吹き上げた噴煙は強い風に乗ってチンボラソ上空にも運ばれ、急速に暗くなった空からは雨の様に火山灰が降り注いだという記録が残されています。

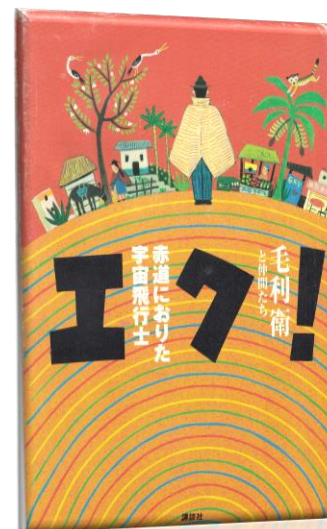
2000年、日本人初の宇宙飛行士毛利衛さんがエクアドルを訪れ麓からチンボラソを眺めました。「チンボラソが大きく、ほかの山々を圧倒するかのようでどっしりとそびえ立っていた。人々があこがれる、大きな自然、聖なる山。その姿は堂々としている。横から夕陽の光がさしこんできた。スペースシャトルから見る夕陽は、地上の16倍のスピードで沈む。太陽と大気が織りなすスピーディーな光の変化を遠くから眺めているのは、天体のショーを見ているようだった。」

一方、ここで自分が光を浴びて夕陽の風景の一部になるのは、まったく違う種類の感動をもたらした。人間の体の大きさを自然で見ている-自分の体からずっと山までつながっている。風が、寒さが体の芯までしみこんでくる。ここで見る星は、またたきが少ない。空気がうすくてきれいなせいだろうか。宇宙で見た星空と似ている。たくさんの星の中に南十字星やカノープスをさがしてみる。ここは地球上でいちばん宇宙に近いところ。地球は楕円形であるために、チンボラソの頂上はチョモランマよりも二千メートルほど地球の中心から遠いのだ。」

(エク!赤道に降りた宇宙飛行士 毛利衛と仲間たち 講談社)

1931年、赤道直下の国エクアドルにHCJB「アンデスの声」放送局が設置されました。日本語放送は1964年(東京オリンピックの年)に開始され、「神の恵みと祝福」が世界一高い放送アンテナを通して地の果てまで届けられるようになりました。天からの使命が与えられ、適地が与えられ、人が遣わされて始まったこの働きは 継続されています。Reach Beyond (さらに遠くへ) というスローガンを掲げて、Voice (放送) & Hands (地域開発) を核にした天・地・人を生かした幅広い活動が今も繰り返されているからです。

神よ。国々の民があなたをほめたたえ、国々の民がこぞってあなたをほめたたえますように。国民が喜び、また、喜び歌いますように。(詩篇67篇)



サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送

淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送

10月06日	アンデスの民に福音を 識字教育宣教師 林 和子	10月07日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇シリーズ
10月13日	アンデス録音スケッチ: チンボラソ山麓にて	10月14日	リスナーからの手紙紹介 『お便り交換の時間』
10月20日	アンデス録音スケッチ: サン・ホセ村の人々	10月21日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇シリーズ
10月27日	アンデス録音スケッチ: 鉄砲づくりの村	10月28日	聖書遊覧バス 旧約聖書 詩篇シリーズ

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただきます。(mp3形式)

放送時間: 日本時間 午前7時半~8時 15400kHz (再放送) 午後8時~8時30分 15400kHz
(米国アリゾナ州制作/オーストラリア送信)

